



ファミリーコミュニケーションデイ企画

あいかわ

自然観察会①

終了報告

神奈川県立 愛川ふれあいの村 主催事業

4月7日（日）

今年度最初の『あいかわ自然観察会』を行いました。とてもいい天気で観察日和。18名の参加者と一緒に春の息吹溢れる愛川ふれあいの村を歩き、様々な花や生き物を発見しました。



体育館の側にある満開のソメイヨシノを眺めながら、足元の小さな花に目をやります。そこには3種類のスミレが咲いていました。それぞれの特徴を見ながらじっくりと観察します。「これはスミレ？」と子どもからの質問に、三国志の話を交えて「諸葛亮が広めたといわれているんだよ。」と教えてあげました。



サンショウの若葉が出ていたので、少し揉んで匂いを嗅ぐと「いい香りですね」。五感にうったえかける観察をしていきます。少し進むと、「ボケがきれい！」と白やピンク、赤のボケの花を撮影する方もいます。何度か参加した方が「この木に幼虫がいませんでしたっけ？」と食堂前でアカボシゴマダラの幼虫を探します。結局そこにはいなかったのですが、炊事場のエノキには何匹もいて、ほっとした様子。





道中、キチョウの幼虫やコメツキムシの仲間、子どもたちに人気のダンゴムシを見つけます。大人はイカリソウやニリンソウを見つけ、花を楽しんでいました。「ヒトリシズカですよ、これ？」と言われ見てみると、スタッフも気付かないほど小さな花が咲いていました。



今朝、村で見たアオバトの話をする「アオバトくるんですか!？」と目を輝かせる参加者。アオバトの糞は特徴的な形をしているとのこと。スタッフも初耳で参加者から学ぶことも多いです。野外炊事場につくと、キセキレイのカップルが迎えてくれました。今年も同じ場所に巣をつくるようです。参加者はそのきれいな容姿に時間を忘れて観察しました。



この日は桜がきれいでしたが、少し視線を変えるだけで小さな花や虫、どこかに隠れる小鳥などたくさんの生き物がいることに気が付きます。景色でとらえる自然も小さな世界でとらえる自然など、様々な視点から楽しんで見てみてください。さらに付け加えるとすれば、触って、嗅いで、聴いて、見て、味わうといった五感で体験すると印象に残ります。とは言いつつ、名前を覚えることは重要ではないのです。見つけた鳥が何をしているか、誰に葉が食べられたのかなど、生き物を関係付けて伝えていけたらと思います。

次回は5月5日に行います。今回はまだつぼみだった植物の花が咲くかもしれませんし、蛹だった蝶がきれいに舞っているかもしれません。日に日に変わっていく自然の営みを感じに来ませんか。

【文責：石川 写真：吉田・愛川ふれあいの村スタッフ】